

霜又は汞靈の庭に楓の根を印するもの、落葉の中をガサガサと食求るもの、霜枯れし芭蕉野菊の亂れし籬邊、南天の實赤き藁舎の隅、山茶花咲きて柑橘の黄熟せる竹舎、喧を避けたる隱士が柴扉のもと、殘柿赤き稻むらの畑、曉發遠村雞鳴等、皆これ平和を現す好畫題である。

立料山の偃松帶や、淺間山北面熔岩帶に露宿すると、曉明の頃靈雞が鳴くとの事で、前者に宿りしときは聞かなかつたが、後者に宿りしときは慥かに聞いたのである、何處で鳴くといふて指摘する事は出来ない、空で鳴く如く、地中で鳴く如く、一種の靈氣に襲はる様な氣がした、余は靈雞と信じ詩的に味ふて居つた、其後或學者にこれを語ると、靈雞でも何でも無い、信州は高原で空氣が透明して居るから、遠い村落で鳴たのが聞えたのである、殊に動物の聲で遠音に響くものは雞に續くものは無い、遠くに送る電話で人間の聲は届かなくも、その附近で鳴た雞の聲は判明に通じた等と余分の説明までしてくれた、これは學說として間違ひはあるまい、されど美感を科學的に説明すると畫も詩も出來なくなる、自分は矢張り今も尙靈雞として深くは味はつて居る。

(了)

水彩畫の繪具(その一)

水彩畫の繪具には、練製と乾製と粉末のと三種がある、練製はモイストカラーとよばれて、錫の筒(チユーブ)入りと小なる陶器(パンツ)入りとの二種ある、乾製(ケーキ)は長方形の固形體であつて、練製も乾製も大小二種ある。粉末製は小さな壘入りで、アラビヤゴムに溶いて用ひるもので、普通の場合には使用せぬ。繪具は以上の如く三種に分れてゐるが、價は皆同一である(色によつて其價に差異あれど)、量が一番ケーキが多く、パンツは少ない。

専門家は多くチユーブを用ゐる、パレットの上に入用丈け出すのに至極便利であるが、繪具が古いと硬くなつて筒の口から出なくなる、それ故コバルトとかインヂゴとか、常に多量に用ゐる繪具のほかに、小形のを買つて置くとよい、そして買ふ時押して見て硬くないのを選ぶがよい。